

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個に応じた分かる授業づくりを行い、生きて働く知識・技能を身につけさせる。
- 各教科の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る。

学力向上検討委員会構成

- | | |
|-------------------------|---|
| 学力向上推進員
浅田 清子 | 委員
教頭:北垣真由美 高学年主任:竹島かなえ
中学年主任:丸池 倫世
特別支援コーディネーター:山下裕一 |
|-------------------------|---|

校長

徳永 啓牟



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

(1)知識・技能の習得

管理職による授業参観や教員からの報告等、児童教員のアンケート、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○計算や漢字についての基礎的・基本的な知識・技能は個人差はあるが、ある程度の定着が見られる。 ●授業中の姿勢が崩れがちである。身の回りの物の名前を知らないなど、語彙力が乏しい児童が多い。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・漢字計算のドリル学習を計画的に進め、月末に確認テストを全校で行う。 ・発達段階に応じて姿勢体操を日課に取り組み継続的に取り組んでいく。 ・体験や遊び、読書を通して、生活に必要な語彙を豊かにさせる。	・学年によっては月末だけでなく月に何度か確認テストを行う。 ・家庭での読書を推奨するために長期休業日に、家庭でふれあい読書を課題にする。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表や表現活動に進んで取り組み、自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる児童が多い。 ●「書くこと」に対して苦手意識があり、課題に応じて、必要な情報等を取り入れ、自分の考えをまとめることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、筋道を立てて自分の考えを話したり書いたりすることができる。 ・様々な場面において、話し手の顔を見て話が聞け、話の内容を受けて、自分の考えを整理し、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・問題解決的な学習を展開し、根拠を明らかにして、自分の考えが説明できたり書けたりできる。そのために、教員がファシリテーターとしての役割を担っていく。	・コロナ感染拡大予防のために話し合い活動は、密にならないような配慮をしながら行う。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な学習態度で学習に取り組むことができる。与えられた課題に対して根気強く取り組む児童が増えてきた。 ●家庭学習の内容や時間は個人差が大きく、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に目標を持って取り組むことができる。 ・目標を持って課題を解決できるよう計画を立て、実践し、自分の学習状況をしっかりと振り返ることができる。	・児童一人一人が、考えを深める対話的な学びが実現できるように、教員は発問を工夫するなど授業改善を図り、自己研鑽に励む。 ・家庭学習の意義を伝え、主体的に目標を持って自主学習や読書に取り組めるよう賞賛しながら指導していく。	・全校児童の自主学習ノートを学期に一回展示し、お互いに学び合える機会としていく。		

令和2年度 学力向上ロードマップ

